

あなたの 僕らのレコジャケ展

去る2月19日(水)～24日(月・振休)の6日間、パレットとつとり市民交流ホールでレコードジャケットを楽しむ展示イベントを開催しました。

このイベントでは、地元でお店を営む方やミュージシャン、アーティストなど音楽とレコードを愛する方々に、ご自身のコレクションの中から選りすぐりのレコジャケを展示してもらいました。当初、展示してもらえるレコード愛好家の方がどれ程いらっしゃるのかも手探り状態でしたが、一人の出展者の方から別の愛好家の方を紹介していただき、またその方から別の方を紹介いただくなど、人から人へ繋いでいただき結果的に出展者数は38名まで増え、出展点数も想定を大きく超える約250点が並び、見ごたえのある展示となりました。

最近では、音楽の楽しみ方がレコードやCDなどの有形媒体から音源データのダウンロード販売やサブスクリプションなど無形媒体にまで多様化している中で、レコードジャケットの31cm×31cmの大きさによる迫力や独特の質感は、まるでアート作品を見ているようでその魅力はレコード世代のみならず、レコードを知らない若い世代のお客様の目にも新鮮に映ったようでした。

また各出展者が自身の出品の中から更に「MY BEST」の1枚について、そのお気に入りポイントや思い出などを書いたコメントも好評でした。「数十年前にお店を始める時に店名をつけるきっかけとなったレコード」、「レコードショップで沢山のアルバムを眺めているだけで幸せだった少年時代の思い出」、「トランペッター マイルス・デイヴィスが自身で描いたイラスト」、フラワーアーティストが選んだ「深紅の薔薇が情熱的かつ女性的な印象のジャケット」など、どれも出展者の感性、個性、生き方が垣間見えるようでした。

一般の方の『持ち込み展示コーナー』では、既に出展されているレコジャケを鑑賞した上で、「日本のものが少ないけれ『中島みゆき』を」、「このレコードはレアでみんなあまり見たことがないかも」、「4000枚のコレクションから選んできました」と、みなさんご自慢の逸品を持って来てくださり、展示した後は「友人に自慢するんで♪」と展示したレコジャケの前で記念撮影をしたり、後日ご友人を連れて来てくださったりと、繰り返し会場に足を運んで楽しまれていました。

会場内では実際にレコードプレイヤーで音楽を流し、土日にはCAFE KOHANHE、喫茶1ER ぶるみえの出張カフェ出店もあり、コーヒーを飲みながらゆったりと展示を楽しんだりレコード談義に花を咲かす姿も見られました。

来場者の方からは、「いろいろな人の感性で選ばれたレコード、とても面白かった。(30代男性)」「とても芸術的なものはかりで感動した。今のCDジャケットとは違って、レコードジャケットだからこそ



の味わいみたいなものを感じました。(30代女性)

「レコードジャケットがこんなにかっこいいなんて…。これだけ集まると壮観ですね。美味しい珈琲を飲みながらのジャケ鑑賞、至福のひとつでした。(50代女性)」「昔聴いたレコードを見つけ思い出にふけりました。ジャケットのイラストが今見るととても新鮮に見えました。(60代)」など、嬉しいお声をたくさんいただき、世代を超えてレコードジャケットの魅力を楽しんでいただくことができたようでした。

ご来場・ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。